

「窓展：窓を巡るアートと建築の旅」

東京国立近代美術館（北の丸公園） 2019. 11. 01～2029. 02. 02

香川県・丸亀市猪熊弦一郎美術館 2020. 07. 11～09. 27

「東京国立近代美術館」と「窓学」を主宰する「一般財団法人・窓研究所」がタッグを組んで行う初企画は、「マティス」「クレー」「デジュシャン」「リヒター」「ディルマンズ」から「コルビュジェ」「カーン」まで、ジャンルを超えて集まった「58作家・110点余」の“窓を巡るアートと建築の旅”展である。

「窓」は、我々の暮らしにとって欠かせない身近なもので、これまで数多くのアーティストや建築家が、「窓」からひらめきを得て作品を制作している。

それは、「窓」が「アート」と同じく、日常の中に新しい世界の眺めを開いてくれるものであるからで、会場を出た時に心の窓が開きいつもの暮らしが新しく見える経験をできるものを期待して本展覧会が企画開催されている。

展覧会の構成は、絵画に描かれた窓、室内・屋外の接点としての「窓」、そして「窓」をめぐる建築とアートの歴史のテーマで様々な作品が展示される。

「窓の世界」は、「バスターキートン」の名作映画『キートンの蒸気船』からスタートとして、窓の世界へといざなうイントロダクションである。

「窓から眺める建築とアート」は、時代や東西を問わず「窓と建築とアートの歴史をたどる全長 12m の年表」が制作され、「コルビュジェ」「カーン」「スターリング」「アイゼンマン」までの建築家による「窓のドローイング（製図）」や「貴重な書籍」もあわせて展示されているのでとても興味深い。



マティス 《待つ》 1921～22年頃 油彩/カンヴァス

画伯にしては随分落ち着いた色彩で、一人は遠く海を見やり、一人はうつむき思いにふける様子であるが彼女たちはいったい誰を待っているのだろうか。

岸田劉生 《麗子肖像（麗子五歳之像）》1918年 油彩/カンヴァス

額縁という窓の向こうに描かれた麗子肖像画を描いた絵でだまし絵である。

リヒター 《8枚のガラス板》2012年 ガラス、スチール構造物

8枚のガラスが鑑賞者の姿を様々に映し出す超重量級立体作品は圧巻だ。